

特例校制度各地で活用

多様な教育ニーズに対応しようと、教育課程特例校制度の活用が各地で進んでいる。文部科学省は2024年4月時点で1845校を指定する。県内では7市町の35小中と仙台一華高、私立4小中の計40校(学校数の約6%)が、主に英語を重視した独自教科に取り組んでいる。

さいたま市教委は16年度、市立全162小中で独自の英語教育「グローバル・スタディ」を始めた。小1から中3まで9年間の一貫した教科で、国が求める標準時数より小学校で計209こま、中学校で計51こま多く確保する。独自の教材も作成し

た。文科省の23年度調査によると、国際的な外国語検定「CEFR(セフアール)」のA1レベル(英検3級と同等)相当以上を取得している中3の割合は88・4%。仙台市の45・7%、全国平均の50・0%を大きく上回り、都道府県・政令市でトップだった。

さいたま市教委の担当者は「全国学力・学習状況調査も好成績で、成果が着実に出ている。若年人口が増えており、都市の魅力アップにも結び付いているのではないかと話す。松島町教委は22年度、町立全3小を対象に「子ども国際観光科」を導入した。5、6年は英語と総合的な学習の時間を合わせ、年85こまを充てる。外国人観光客に英語で観光案内ができるコミュニケーション能力を育み、郷土への誇りを醸成するのが狙い。

町教委の担当者は「英語の授業を好きになったのが第1段階の成果。次は英語力向上の効果を検証し、授業内容を改善する」と話す。25年度はコロナ禍で自粛してきた対面による英語ガイドを復活させる予定だ。県内では他に、気仙沼市鹿折小、唐桑小の「海と生きる探究活動」、塩釜市浦戸小中の「浦戸探究科」といった取り組みがある。

さいたま市 教材も独自に 松島町 コミュ力育む



「子ども国際観光科」で学んだ英語を生かし、観光スポットを動画で紹介する松島町の小中学生。2024年7月